



議会ホームページ

豊岡病院	高田 陽平	ただだ へいへい	呼吸器内科 医員	令和7年9月30日退職
	石井 俊光	いしい しょうこう	循環器内科 医長	令和7年9月30日退職
	大野 奈都美	おのの なつみ	循環器内科 医員	令和7年9月30日退職
	山田 祥仁	やまだ しょうじ	小児科 医員	令和7年9月30日退職
	元植 彩乃	もとえ さいの	小児科 医員	令和7年9月30日退職
	丹羽 優花	にわ ゆうか	小児科 派遣医	令和7年9月30日退職
	藤田 健嗣	ふじた けんじ	脳神経外科 医長	令和7年9月30日退職
	宅間 敬晃	たくま けいこう	泌尿器科 医員	令和7年9月30日退職

このバナーをクリックすると「ほすびたる」掲載記事が閲覧できます。



腫瘍の大きさにもよりますが、開腹手術の場合、少なくとも10センチ以上、大きな腫瘍なら20センチ以上お腹を切ることになります。そうすると傷が残りますし、傷が大きければ大きいほど術後の癒着（本来くっつく必要のない組織や臓器の表面がお互いにくっついてしまうこと）を起こす可能性が高くなるため、患者さんの回復に影響が出てきます。

豊岡病院

産婦人科

検査などを通して患者さんの状態を確認し、またご希望をうかがいながら、低侵襲手術で対応できる場合は実施するようにしています。



豊岡病院産婦人科のスタッフ

低侵襲手術で変わる、婦人科治療の未来

豊岡病院産婦人科の腹腔鏡手術の件数は、北近畿地域の医療機関では最多了。手術支援ロボット「ダヴィンチ」なども活用して、患者さんの体にやさしい低侵襲手術に取り組んでいます。

対象となる疾患

当院産婦人科で低侵襲手術の対象となるのは、基本的に良性疾患です。卵巣腫瘍や子宮の筋肉にできる良性の腫瘍で、3人に1人の女性にみられる「子宮筋腫」、子宮内膜症の一種で、子宮内膜によく似た組織が子宮の筋層内にできる「子宮腺筋症」、骨盤の筋力が落ちて支えきれなくなった子宮が下に落ちてくる「子宮脱」(骨盤臓器脱)などの疾患で、低侵襲手術を取り入れています。

豊岡病院産婦人科で行う低侵襲手術

腹腔鏡手術ではだいたい4カ所、おへそを約1.5センチ、下腹部の3カ所を1センチ切開し、おへそから内視鏡カメラ、下腹部からは

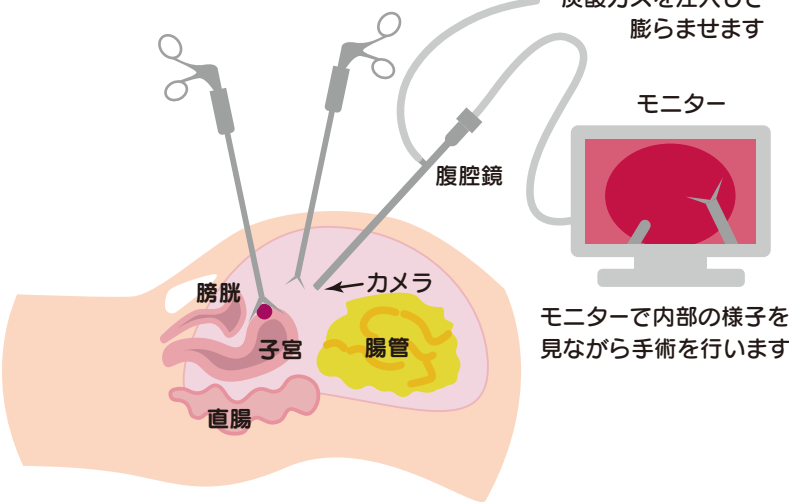
かんし鉗子(刃のないはさみのような形をした手術器具)を入れて手術を行います。

ロボット支援手術は、おへそその切開部分から内視鏡カメラを入れて、真横の4カ所の切開部分からロボットアームに装着した鉗子を入れます。それを、操作台に座った医師が3Dカメラの映像を見ながら遠隔操作します。アームは多関節で、人間の手と同じように動かすことができるほか、手ぶれがないためより繊細な手術ができます。

最新の低侵襲手術

最近では、膣から内視鏡カメラや鉗子などを挿入して行う「vNOTES」(経膣的内視鏡手術)にも取り組んでいます。お腹を切開せずに手術ができるのが特徴です。

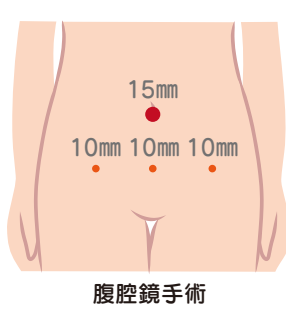
●腹腔鏡手術のイメージ



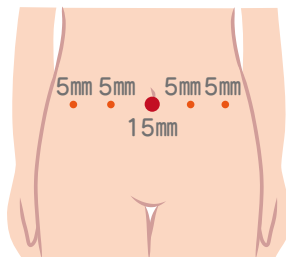
●ロボット支援手術の様子



●子宮全摘手術の切開位置と大きさ



腹腔鏡手術



ロボット支援手術

Interview



早期発見で増える治療の選択肢 気になることがあれば気軽に受診を

日本産科婦人科内視鏡学会の腹腔鏡技術認定医、ロボット技術認定医の資格を持ち、婦人科の低侵襲手術を行っています。少しでも患者さんへの体のダメージを少なくして、早期の社会復帰が可能になるように心がけながら取り組んでいます。

2022年10月に当院に赴任して以来、これまで適用対象としていなかった大きさの腫瘍の腹腔鏡手術や、患者さんのお腹に傷をつけない「vNOTES」を実施してきました。都市部で行われている手術を、当院でも同じように行うことを目指しています。手術をするという劇的に症状が改善するケースもあり、患者さんに喜んでいただけたとやりがいを感じます。

産婦人科では、若い方からお年寄りまで、病気や困っていることに対してサポートしています。不正出血やお腹を触るとしこりのようなものに触れるといった

違和感、生理痛がひどいなど、普段と違うことがありましたら、気軽に受診してください。定期的に自治体などが行うがん検診を受けてもらうことも大切です。

産婦人科は受診のハードルが高いと感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、早期発見することによって治療の選択肢やアプローチは増えます。例えば不妊の原因になりやすい子宮内膜症でしたら、ピルで悪化を抑えることにより不妊の予防につなげるなど、患者さんのライフイベントに合わせた対応をとることができます。

産婦人科では女性の一生をサポートしていきます。患者さんのご希望にできる限りお応えできるよう努めておりますので、気になることがあれば何でもご相談ください。

TOPICS

各病院のお知らせ情報

豊岡病院

放射線治療装置（リニアック）の更新に伴う、新規患者受け入れ停止のお知らせ

前号に引き続き、大切なお知らせのため再度掲載いたします。放射線治療装置の機器更新作業に伴い、放射線治療を新たに開始される患者さんの受け入れを、以下の期間停止いたします。

- 1 受け入れ停止期間
2026年1月～2026年9月（予定）
- 2 停止期間中の対応
放射線治療が必要な患者さんには、当院と連携する医療機関をご紹介します。

なお、治療の再開は2026年10月を予定しております。ご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

出石医療センター



余命半年、あなたは何を大切にしたいですか？

先日「もしバナゲーム」を体験しました。人生の最期に何を大切にしたいかを話し合うカードゲームです。「家族と一緒に過ごす」「不安がない」など様々な願いが書かれたカードの中から、自分にとって大切だと思うものを選び、仲間と語り合います。普段あまり考えないテーマですが、お互いの考えを知ることによって「人によって大切に思うことが違う」ことに気付かれます。この体験を通じ、患者さんの思いをより大切にしたい関わりができるよう努めてまいります。

11月14日は世界糖尿病デーです

11月14日は「世界糖尿病デー」です。世界規模で糖尿病への注意を呼びかけようと、インスリンを発見したカナダの医学者、バンティング氏の誕生日に制定されました。日本では、この日を含めた1週間を「全国糖尿病週間」として、糖尿病の予防や治療継続の重要性についての啓発活動を各地で実施しています。公立豊岡病院組合の各病院でもさまざまな取り組みを行っています。

豊岡病院の取組

待合ホールで「糖尿病相談会」を開催 11月10日(月)、12日(水)13:00～16:00

豊岡病院では、新たに糖尿病リンクナース会を発足し、より充実した支援が可能になりました。糖尿病教育クリニカルパス(診療計画)による教育プログラムの実施や糖尿病教室・個別指導を行っています。今年度は世界糖尿病デーに合わせて1階待合ホールで「糖尿病相談会」を開催します。どなたでもご参加頂けますのでぜひお立ち寄り下さい。また、ポスターやデジタルサイネージによる情報発信、ブルーサークルの掲示など病気に関心をお持ち頂けるような展示を行います。また、豊岡市と共催で医療従事者向けの研修会を行います。日本では予備群を含めて6人に1人が糖尿病と共に生きています。自分や大切な人を守るためにも、糖尿病を理解・予防に向けた一歩を踏み出すことが大切です。



日高クリニックの取組

糖尿病を正しく理解するポスターを掲示

日高クリニックでは、医師・薬剤師・栄養士・理学療法士・看護師など多職種による生活習慣病委員会を設置。糖尿病の患者さんについては、血糖とインスリンの働き、栄養や食事などをテーマにした全6回の個別指導や、栄養士による定期的な個別指導を行っています。今年度は全国糖尿病週間に合わせて、11月10日から14日まで、糖尿病を正しく理解できるポスターを掲示します。ポスターでは、市販のソフトドリンクに含まれる砂糖の量も分かりやすく説明しています。当院は高血圧や糖尿病の生活指導に力を入れており、個々の患者さんのニーズに応えるように心がけています。検査結果などで受診を勧められた方は、お気軽にお越しください。



出石医療センターの取組

パンフレットやクイズで楽しく学ぶ

出石医療センターには、糖尿病だけでなく、高血圧や脂質異常症といった生活習慣病の患者さんも多く通院されています。そこで積極的に糖尿病のスクリーニングを実施し、より早期の段階で糖尿病や耐糖能異常に対して介入できるようにしています。予防のための栄養指導などもご提案しています。昨年度は、全国糖尿病週間に合わせて多職種で協力してパンフレットやクイズなどを準備し、ご来院の皆様に学んでいただきました。今年も糖尿病予防のヒントを楽しく知っていただけるイベントを企画しております。糖尿病予防には、日々の生活習慣を整えることがとても大切です。ぜひお立ち寄りいただき、一緒に安心して過ごせる毎日にしていきましょう。



身障者用駐車場 適正利用のお願い



豊岡病院組合では、移動に不自由のある方々が安心して利用できる環境を目指し、身障者用駐車場を設置しております。このスペースは、身体に障害のある方が安心してご利用いただくための特別なスペースで、皆さまの思いやりで成り立っています。ご来院の皆さまには、お体に配慮が必要な方々のために、本来の目的に沿ったご利用を心がけていただきますよう、何卒ご理解とご協力をお願いいたします。

妊娠後期・産褥期の女性のための栄養について、共同研究を行っています

京都光華女子大学 健康科学部 健康栄養学科 管理栄養士専攻4年生と豊岡病院 栄養技術科の管理栄養士・調理師が共同で、妊娠後期・産褥期の入院患者さまを対象に、食習慣に関する意識調査を行い、病院食を通じて、食への関心を高め、正しい知識を習得してもらう方法についての研究です。



この時期に必要な量が増加する栄養素である「鉄」の必要量が充足できるようなアプローチ方法を検討しています。

大学生から鉄強化メニューの考案を受け、実際に病院食として提供しました。パンフレットによる啓発を行った後の妊娠後期・産褥期の女性の食習慣に対する意識の変化を現在、調査中です。



朝来医療センター

今年度より、新たに言語聴覚士(ST) 1名を採用しました！



食べものや飲み物を飲み込むことが難しい患者さんへ専門的な支援や、失語症などの言葉の障害に対する評価・リハビリテーションを新たに行うことが出来るようになりました。言語聴覚士を含む多職種チームが連携し、評価や嚥下・言語機能改善に取り組んでいます。患者さんに食べること、話すことの幸せを感じていただけるように、これからも全力でサポートしてまいります。

日高クリニック



校外学習の受け入れ

2025年9月19日に近隣の高校生の校外学習(探究活動)として、管理栄養士への取材を受け入れました。『健康寿命を延ばせ!!』をテーマに探究活動をされており、日々の食事で大切なことなど、たくさんの質問をいただきました。今回の取材を通して、高校生の皆さんが将来の展望等を考える良いきっかけになればうれしいです。